

所属・資格 英文学科・助手

申請者氏名 島本 慎一郎

研究課題		第二言語リーディングと他技能間における習熟度の相関関係について
報告の概要	研究目的 および 研究概要	<p>研究目的：本研究は、文部科学省が定めた中学課程修了時における英語技能能力検定3級、高等課程修了時における英語技能能力検定準2級程度の英語力の定着という目標の達成率を現状よりも向上させるために、日本の教育機関（主に中学校、高等学校）における外国語のリーディング指導において、教師がより効果的な指導を行い、より多くの生徒が文部科学省の定めた基準に到達することに寄与するものである。</p> <p>概要：リーディングに関する研究は四段階で計画されている。</p> <p>第一段階 第二言語リーディングにおける認知処理 第二段階 第二言語リーディングと他技能間における習熟度の相関関係 第三段階 第二言語リーディング指導の役割と効果 第四段階 第二言語リーディングの習熟度を測るテストに関わる研究</p> <p>第一段階では、第二言語リーディングにおける認知処理の研究を行った。具体的には、リーディングの流暢さと正確さ（理解度）との関係性に注目し、流暢さに焦点を当てることで相関的に正確さの向上が期待できることをリーディングの認知処理モデルを用いて説明した。今年度は第二段階へと移り、リーディングと他技能にはどの程度相関関係があるのかを観察・調査をもとに数値化し、第三段階のリーディング指導の役割と効果についての研究の橋渡しとする。</p>
	研究の結果	第二言語リーディングの理解度を正確に測定するために、信頼性（Reliability）と妥当性（Validity）の高い筆記テストを作成し、学習者の理解度を測定した。その後、音読の流暢さを独自のループリックに基づいて、測定・採点をした。それぞれの結果を比較した結果、高い相関関係($r=0.5$)が存在することが明らかになった。
	研究の考察・反省	第二言語リーディングの理解度と音読の相関関係を導き出したが、学習者の習熟度によって多少相関係数に差が見られる。音読そのものに慣れていたり、観察時に緊張してしまう被観察者がいたことが理由であろう。先行研究でも理解度と音読の相関係数については差異がみられる。今後は、題材のレベルと学習者レベルを変え、音読の測定方法・採点方法を見直し、再度相関係数を導き出すことで、音読が第二言語リーディングの理解度をより高い妥当性で測定できるのかどうか、どのような方法で測定すると高い相関係数が導き出せるのかを調べる必要がある。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>日本大学英文学会 自律学習者を育成するためのタスクデザインと実践 2018年10月13日（土）/ 日本大学文理学部</p>
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	